

〔実践記録〕

## 複式学級における学校図書館活用に関する一考察

— 鳥根県大田市 T 小学校の実践から —

大 平 睦 美

### 要 旨

本稿では、鳥根県大田市直 T 小学校による複式学級での学校図書館を活用した授業実践の取組みについて考察する。T 小学校は全校児童 20 名 3 学級の複式学級の学習スタイルを用いる。学校図書館法で司書教諭の配置義務が猶予されている 11 学級以下の学校であるが、鳥根県の子ども読書活動推進事業により、学校図書館ボランティアが配置されている。そのような背景をふまえ、本稿では複式学級における学校図書館を活用した授業実践を報告することで、その役割を検討し、教育課程を支える学校図書館の実現を期待し、小規模校における学校図書館メディアの構成を提案する。

キーワード： 複式学級の学習指導 学校図書館活用 司書教諭 学校司書

### 1. はじめに

文部科学省による平成 24 年度学校基本調査の結果（表 1）、全国の小学校の学級数は 275,136 学級、複式学級数は 5,440 学級である。複式学級は学校の統廃合により前年度より減少している。

少子化現象はわが国の課題の一つであり、全国の学校で児童生徒数が減少している。

鳥根県教育委員会による学校基本調査の結果（表 2）、小学校では 11 学級以下の小規模学校が 78%を占めており、本稿では小規模学校における学校図書館の活用がどうあるべきかについて、鳥根県の学校図書館活用教育について注目した。過疎化の進む鳥根県では、子どもの育成のため子ども読書事業推進事業を実施しており、読書活動の推進拠点として学校図書館の機能を高める取り組みを行っている。また、学校図書館法にあるように学校図書館の機能は読書のためのみではなく、学校教育に寄与するものであることから、県が学校図書館活用教育を推進しているとも言える。

しかし、県では、平成 21 年度より「子ども読書県しまね」（表 3）として子ども読書活動推進事業を学校図書館、公共図書館、保護者などと共同に取り組んでいる。県立学校には学校司書を配置し、市町村立の小学校、中学校には県が補助をし、県内全ての公立小中学校に学校司書もしくは学校図書館ボランティアを配置している。（表 4）また、平成 25 年 4 月より県内すべ

ての公立小中学校に司書教諭が配置される。

そこで、本稿では司書教諭が配置されていない小規模校における学校図書館活用教育として、担任と図書館ボランティアによる授業実践について述べることにより、小規模校での、その役割と課題について提案する。

なお、本稿における小規模校とは「学校教育法施行規則」第17条にある、「12学級以上18学級以下を標準にする」から11学級以下の学校とする。

## 2. 大田市立 T 小学校の図書館活用教育

### 2-1 学校の概要

T 小学校は明治 8 年創立の Y 小学校が幾度かの統廃合を経て昭和 29 年 4 月大田市との市町村合併により、大田市立 T 小学校と改称された歴史をもつ。校区は東西 9km、南北 6.2km、面積は 30.13km<sup>2</sup> である。大田市の南東部に位置し、校区全体が山地である。世帯数は 217 戸、人口は 637 人（平成 24.4.1 現在）、約 7 割が兼業農家であり、和牛、乳牛の飼育が盛んである。地域住民の学校教育に対する関心は高く、保護者も PTA 活動に協力的である。

児童数は 20 名、学級数は 3、1・2 年生 4 名、3・4 年生 6 名、5・6 年生は 10 名の複式学級である。（表 5）過疎化が進み、今後更に児童数が減少することが見込まれることから、来年度より、A 小学校との統合が決定している。現在まで幾度かの統廃合の結果、校区が広く、子どもたちは下校後、近所に友だちが少ないため自宅でテレビやゲームで過ごす時間が長い。そのため、学校と家庭が連携し、家庭での読書など基本的な生活習慣づくりに取り組んでいる。

### 2-2 教育目標

教育目標は「たくましく心豊かな児童の育成」であり、「元気な子」、「よく考える子」「思いやりのある子」「進んで行動する子」をめざす。

また、今年度の重点目標として平成 25 年 4 月に迫った「①「学校統合」へ向けて児童への指導と各種業務の円滑の推進」をあげ、校内研究の最終年度として「学校図書館活用教育」のまとめをすすめている。

### 2-3 教育課程

教育目標の「たくましく心豊かな児童」の育成を具現化するために、創意をいかした教育活動として体験活動を重視している。その活動とは、地域の人、自然、もの、ことにかかわる活動であり、地域行事への参加や、種蒔まきから、田植え、稲刈り、脱穀、収穫祭にいたるまでの米作り活動など。そのほか体育や音楽、集会、保健、環境美化などとともに、読書活動として朝の読書活動が取り入れられている。特に第 2 水曜日は担任による読み聞かせ、第 4 水曜

日は全校読み聞かせと行事計画に位置付けられている。T小学校では、計画・実践・改善のサイクルを重視することで、教育目標の実現を図っている。

#### 2-4 校内研究

校内研究の主題を「自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成 一人一人に応じた学校図書館活用教育を通して」とし、研究教科等は国語・学校図書館活用教育である。

研究主任はT小学校在籍4年目、図書館担当を兼任しており、1・2学年の担任でもある。(詳しくは次節で述べる)

### 3. 学校図書館活用教育の取組み

#### 3-1 学校図書館の現状

T小学校には第1から第3までの学校図書館がある。主に第1図書館を利用する。蔵書約3,000冊。開館時間は毎日8:00-8:15、昼休み、雨天時の10:10-10:40、また学級による読書など学校図書館を活用する授業に利用する。蔵書検索、貸出返却は読書カードに記入する。貸出は1回につき2冊、貸出期間は1週間である。第2図書館は、現在休園中の幼稚園の蔵書が置かれており、絵本中心である。その他、児童が授業で創作した作品が蔵書として展示されている。ソファーセットなどくつろげる空間づくりがされており、特に利用時間を設けることなく随時利用することができ、貸出はできない。但し、学級文庫として、学級への貸出は行う。多目的室が第3図書館と位置づけられ、コンピュータが12台ある。(いずれもインターネットに接続されている。)利用時間は雨天時の10:10-10:40、昼休み、授業時間での利用。インターネットの利用は、授業時間に限られ、児童の印刷は教職員の許可を得て行うなどの約束があり、低学年は学級で利用方法を学習してから利用する。

#### 3-2 学校図書館活用教育の目標

学校図書館活用教育を校内研究に位置づけたのは、「暮らしの中で本に親しみ、いろいろな本を進んで読み、活用する子どもを育成するためには、どのような学校図書館活用教育をすればよいのかを明らかにする」ためであるとしている。T小学校がめざす子ども像とは①本に親しみ、いろいろな本を進んで読む子、②本によって思いやりや学びを深めそれらを伝え合う子、③必要な情報を得るために図書館を積極的に活用する子である。そのために学校図書館は学習情報センターとして、授業や児童の知的欲求に対応できる機能と、読書センターとして児童の発達段階に応じた本などを提供する機能を必要とする。

### 3-3 校内研究の内容と方法

3-2で述べた目標の達成をめざし、T小学校では、①授業での学校図書館の積極的な活用、②読書習慣づくり、③保護者や地域、関係機関との連携、④職員研修を行っている。①では、学校図書館を授業で積極的に活用する単元の構成を、指導案の策定段階で行っている。授業に必要な資料を選択収集するために、「T小学校図書館活用年間指導計画」を作成するなど、計画的な学校図書館活用学習を行っている。児童は一人一冊「大好き！ 図書館」と名づけたファイルを持ち、学習の記録や、パスファインダーなどを綴じて授業に活用している。②では、一人一人に応じた読書指導を継続的に行うことで児童に定着するよう努めている。朝読書の時間を形だけのものとしないう、学校図書館ボランティアの協力を得て、個に応じた読書内容となるよう図っている。その他に、特別活動として各学級に、1週間に1時間「図書館活用の時間」を設定し、学校図書館や学級文庫の利用を促進している。児童一人一人が、読書ノートや個人カルテを作成し、読書を記録し、その記録などをもとに、個人の発達に応じた指導を行っている。また、小規模校の特色を生かし、異学年がペアになってお互いのために本を読み合う、なかよし読書に取組むなど読書を通じたコミュニケーションを行っている。③では、読書活動を啓発するように、学校は「学校図書館だより」を発行し、授業公開や、講演会を開催し、家庭との連携を図っている。現在では、保護者の理解を得て、下校後の家庭における「ノーテレビ、ノーテレビゲームデー」を設定し、親子読書を勧めている。地域の公共図書館との連携については、授業で必要な資料の貸出依頼など、資料を通じての交流を心がけ、連携を深めている。④では、学校図書館活用教育をテーマに、研究職員会議や研修職員会議を実施し、職員間で情報の共有を図っている。また、ブックトークなど学校図書館活用と関連のある新聞記事を職員間で適宜回覧するなど積極的に新しい情報を共有し合うよう努めている。

## 4. 学校図書館を活用した授業実践

教科：国語科

単元名：おはなしをたのしんでよもう

(教材：サラダでげんき 東京書籍1年)

### 4-1 授業対象者第1・2学年

授業実践は1・2学年児童。構成は1学年3名(女子1名・男子2名)、2学年1名(女子)合計4人(表5)である。

実施日は平成24年11月1日(木)2校時、実施場所：集会室

指導者：T1 N教諭(1学年担任)、T2 M教諭(2学年担当)、O(学校図書館ボランティア)

#### 4-2 指導計画（全 15 時間）

- ・いろいろなお話に興味を持ち、楽しんで本を読もうとする。（国語への関心・意欲・態度）
- ・誰が、どんな順に、何をしたのかをとらえ、場面の様子を想像しながら読んでいる。（読む能力）
- ・物語の読み聞かせをし、クイズをすることで本を読むことを楽しむ。（読む能力）
- ・ひらがな、カタカナを正しく読むことができる。（言語についての知識・理解・技能）

本教材は、読解の基本技能として、人物が登場する順序とそれぞれの行動に着目し、物語全体の順序を読み取る力をつけることをねらいとしている。第1学年の教材であるが、複式学級の指導計画A年度に取り上げる教材であり（昨年度はB年度）、第2学年にとっても初めての教材である。第2学年にとっては、読みやすく簡単な教材であるため、より深まりのある学習になる指導計画が必要である。そこで、単元の終わりに「どくしょフェスティバル」を開催する。（本時）「どくしょフェスティバル」によって、上学年を授業に招き、第1・2学年が選んだ本からクイズを出すなど、読書を通して、上学年とのコミュニケーションを深める。学習したことを他者に伝えることを意識して、学習に取り組む意欲を高める。第2学年の児童には、「どくしょフェスティバル」の主となり計画、実行することで主体的に学ぶことができるよう個別に支援する。

#### 4-3 授業の概要

本時にいたるまでの授業としては、1-2時間目に「サラダでげんき」の全文を通読し、学習の見通しをもたせた。3-8時間目には人物が登場する順序に気をつけて物語を読むことをし、2年生にはワークシートを活用し、場面ごとにその時の様子を読み取ることができるようにする。9-10時間目に8時間目までに学習した人物の登場順序と、どのような行動をとったかを、1年生も楽しみながら理解できるよう読書アニメーションを行った。11-12時間目には、「サラダでげんき」と同様に次々とできごとがおこる他の物語を読む。13-14時間目には「読書フェスティバル」に向けて、各児童が11-12時間目で学習した物語から、紹介する本を選び、その本についてのクイズを作った。

本時（15時間目）の目標

##### 第1学年

- ・進んで話し「どくしょフェスティバル」に意欲的に参加しようとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- ・クイズを出し、劇を演じることで、本を読むことを楽しんでいる。（読む能力）

##### 第2学年

- ・進んで話し、本を読む。「どくしょフェスティバル」に意欲的に参加しようとしている。（国語への関心・意欲・態度）

・クイズを出し、劇を演じることで、本を読むことを楽しんでいる。(読む能力)

### ① 「サラダでげんき」劇

前時までに学習した「サラダでげんき」の本文を1・2学年4名が劇にして表現した。主人公のりっちゃんを2学年のMが扮し、りっちゃんにサラダを作るアドバイスをするどうぶつたちの役を1学年の3人が扮した。(写真1・2)



(写真1)



(写真2)

### ② 本の紹介

劇後、1・2学年の児童が一人一冊ずつ選んだ「つぎつぎにできごとがおこる本」(写真3)を上学年(3学年から6学年 16名)に読み聞かせた。



(写真3)

### ③ 読書クイズ

選んだ本から上級生にクイズを出題した。クイズは全員参加、「○か×」の二者択一方式であった。本時で紹介する本を事前に上学年に知らせ、回覧していたため、下級生は上学年がすぐに答えることができないような問題を作成するなどの工夫がされていた。

#### ④ 質問コーナー

上学年から「どくしょフェスティバル」の感想をきく。

#### 4-4 授業者の感想

T小学校では、来年の統合を前に複式スタイルを解消するための授業を行っている。そのため、教科や単元によっては2学年のMは一人で授業をうける機会が増加した。昨年の複式スタイルでは授業で取り上げなかったこの単元を複式スタイルで行っている。Mは複式の授業を楽しみにしているが、担任は2学年にとっては平易な単元であるため、Mが達成感や充実感を感じることができることを考え、単元の最後に「どくしょフェスティバル」を開催することとした。そのため1学年にとっては少し難しくなったかもしれないと感じている。

1・2学年の今年度の学習テーマに、主体的な学びと、大きな学校に行っても自分の意見を言える子どもになることを位置づけている。今回は上学年を巻き込んで、彼らにも読書の幅を広げることと、下学年に対して思いやりを持った態度で接することを学んで欲しいと考えた。

授業の最後に、全員に感想を述べることにしていたが、時間の関係でできなかった。教室に帰ってから各担任がきいたところ、児童からは今日の授業で紹介された本を読みたいという意見が出ていたということである。また、上学年の担任は感想を発表する際にも、普段の態度から考えると意外な児童がすすんで感想を述べているのを見て驚いた。下学年の取組みに対して、上学年として何かしなければならないという気持ちが働いたのではないかと感じていた。

## 5. おわりに

T小学校に限らず、複式学級の学校では図書購入費が少額であるため、資料収集に苦勞している。というのも、現在学校図書館の図書資料などの購入費は自治体で異なるが、児童生徒数または学級数によって決定するためである。しかし、学校の規模に関わらず、公立学校の教育課程は同じであることを考えると、学校図書館を活用した学習指導を行うためには、授業に関わる基本的な資料は学校規模に関わらず必要である。今後も少子化により、図書購入費等の増額が望めない場合には、主として図書を中心とした学校図書館に、それを補うものとして、タブレット端末や、電子書籍などのメディアを活用することを検討する必要がある。また、インターネットに接続するコンピュータの導入により、それらの活用についても、教職員がそれらの活用能力を身につけて児童生徒に指導すべきであると考えられる。

小規模校は大規模校に比べて、児童生徒一人に対する教員の数が多いことから、一人一人の学びに合わせた手厚い学習指導の実現が可能である。例えば、T小学校の1学年には、学習困難な児童がいるが、1・2学年4人に対して、学校図書館ボランティアを含めた3人が指導に入ることにより、4人が同じ学級で活動することが可能であることがわかった。このように複



式学級では個に応じた学習指導が実現可能である。

「どくしょフェスティバル」の最後に上学年からの感想を聞く際にも、指名する側の児童も、指名された児童も、互に名前を呼び合っていた。それは普段から、全校児童と一緒に給食を食べるなどの交流を通して、コミュニケーションがとりやすい環境が作られていることによるものである。

複式学級の学校現場では、児童生徒数の少ないことが話題になりやすく、悲観的にとらえることが多くあるが、少ないことを嘆くことではなく、少ないからこそできる教育について、さらに研究を重ねることが必要であると考えている。

島根県では、小中学校の約78%が11学級以下の小規模校であるが、大田市はそのなかでも過疎化が進み、今後さらに学校の統廃合が検討されている。

現在の我が国の事情を考えると、急激な人口増加を期待することはできない。そこで、大田市のような、人口の減少がつづく市の複式学級の学校を研究することにより、近い将来に、国内で増加すると予想される、小規模学校における、有効で効率的な学習活動の一助になると考える。

今後の課題としては、複式学級での学校教育における学校図書館活用のための、メディアの構成を検討することと、そのために必要な情報活用能力の育成や、少人数によるコミュニケーション能力を高めるカリキュラムの構築であると考えている。

#### 参考文献

- 大平睦美「学校図書館のメディアに関する研究」2012（博士論文）大阪大学  
大平睦美、高鷲忠美「複式学級の学校経営における学校図書館の活用」2012 日本学校図書館学会『学校図書館学研究』第14 pp.133-143  
島根県大田市『統計おおだ 平成23年版』2012  
大田市立富山小学校「平成24年度 学校要覧」2012



表1 小学校の学校数・学級数・児童及び教職員数

区 分	学 校 数			学 級 数		
	計	本 校	分 校	計	単式学級	複式学級
計	21,460	21,228	232	275,136	236,925	5,440
北海道	1,176	1,170	6	12,370	9,314	841
青森	323	323	—	3,248	2,683	142
岩手	372	369	3	3,222	2,666	219
宮城	438	427	11	5,295	4,406	101
秋田	237	236	1	2,377	2,015	47
山形	309	300	9	2,965	2,457	137
福島	491	483	8	4,917	4,363	204
茨城	555	555	—	6,863	5,779	59
栃木	393	392	1	4,544	3,916	87
群馬	333	330	3	4,652	4,152	33
埼玉	822	821	1	13,349	12,409	20
千葉	847	842	5	12,719	11,395	36
東京都	1,363	1,363	—	19,971	19,117	13
神奈川県	892	890	2	17,233	15,101	7
新潟	525	523	2	5,557	4,633	165
富山	199	199	—	2,384	2,054	26
石川	231	227	4	2,786	2,354	69
福井	207	205	2	1,986	1,736	79
山梨	195	189	6	2,108	1,793	36
長野	385	380	5	5,228	4,493	17
岐阜	377	376	1	4,738	4,111	59
静岡	523	518	5	7,665	7,026	90
愛知	985	982	3	15,734	14,011	65
三重	417	406	11	4,597	3,868	101
滋賀	233	231	2	3,522	2,947	17
京都	428	423	5	5,652	4,980	38
大阪	1,039	1,033	6	18,073	15,057	24
兵庫	802	799	3	12,130	10,500	90
奈良	219	219	—	3,428	2,777	13
和歌山	278	266	12	2,460	2,004	143
鳥取	140	135	5	1,618	1,339	14
島根	230	225	5	2,002	1,528	153
岡山	423	415	8	4,764	3,919	133
広島	549	548	1	6,631	5,606	155
山口	343	339	4	3,432	2,789	198
徳島	253	246	7	2,032	1,564	65
香川	185	183	2	2,422	1,993	18
愛媛	333	332	1	3,564	2,908	156
高知	255	252	3	2,055	1,572	130
福岡	767	759	8	10,657	9,530	93
佐賀	181	169	12	2,073	1,741	45
長崎	383	365	18	3,508	2,946	232
熊本	408	395	13	4,480	3,633	128
大分	309	298	11	2,878	2,454	133
宮崎	253	247	6	2,757	2,298	131
鹿児島	576	569	7	4,627	3,624	542
沖縄	278	274	4	3,863	3,364	136

(出典:文部科学省『学校基本調査』初等中等学校編,平成24(2012)年度版)

表2 公立小中学校の学級数別学校数

学級数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	計	1校 当たり 学級数
小学校	平成16年度	1	1	3	44	26	18	33	45	28	9	4	4	5	13	7	7	5	1	2	1	4	5	-	2	-	-	1	1	-	1	1	-	273	8.0		
	平成17年度	-	2	4	42	25	15	29	51	29	6	4	3	7	10	7	9	2	3	4	1	5	4	-	2	-	1	-	-	1	1	-	2	-	269	8.2	
	平成18年度	-	2	5	37	27	18	24	52	25	5	4	7	5	6	9	7	6	2	1	3	5	3	3	1	-	1	-	-	1	1	-	1	1	-	262	8.2
	平成19年度	1	1	4	37	22	14	28	45	35	7	4	3	4	8	8	5	7	3	1	2	3	6	2	2	-	2	-	-	1	-	1	1	-	257	8.4	
	平成20年度	1	2	2	39	21	8	19	44	42	5	4	5	4	9	5	7	2	6	3	-	3	6	3	1	1	1	-	-	1	-	2	-	-	246	8.4	
	平成21年度	1	1	3	41	22	11	19	42	40	9	3	9	3	5	7	4	7	3	2	1	2	7	4	2	0	1	0	0	0	1	0	2	-	-	252	8.4
	平成22年度	-	1	4	34	21	16	15	40	40	15	4	2	6	6	5	4	6	5	2	-	4	5	3	3	1	-	-	1	-	2	-	-	-	245	8.5	
平成23年度	1	2	2	32	18	13	19	38	36	9	5	8	2	7	8	5	5	3	2	1	2	5	3	4	-	1	-	1	-	-	2	-	-	234	8.7		
中学校	平成16年度	-	1	1	18	21	10	4	9	5	6	4	5	3	1	4	3	3	1	2	2	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.9	
	平成17年度	-	1	-	24	17	8	8	5	7	5	6	2	4	3	1	5	2	1	2	3	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	107	7.8
	平成18年度	-	1	-	25	15	10	7	8	5	7	1	3	5	4	4	1	2	2	1	1	2	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	107	7.8
	平成19年度	-	1	-	23	14	9	5	13	5	7	1	3	2	3	4	2	3	1	3	1	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	104	7.8
	平成20年度	-	1	-	19	20	9	2	12	9	4	2	3	2	2	6	1	2	2	2	2	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	104	7.9
	平成21年度	0	0	1	15	20	13	2	11	8	5	4	3	4	0	4	2	2	1	2	3	1	1	0	1	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	104	8.0
	平成22年度	-	1	-	11	23	13	3	9	9	3	5	4	3	2	4	1	2	1	2	2	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	102	8.0
平成23年度	-	1	1	15	21	11	5	4	11	3	1	7	3	3	3	3	1	2	1	3	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	102	7.5	

表3 子ども読書活動推進事業

- ・学校司書等配置事業
- ・司書教諭養成事業
- ・学校図書館活用推進事業
- ・学校図書館パワーアップ事業
- ・「学びを支え 心をはぐくむしまねの学校図書館」読書活動啓発DVD作成・配布
- ・「学校図書館大改造」学校図書館整備DVD作成・配布
- ・「島根県子ども読書活動推進会議」の開催
- ・「しまね子ども読書フェスティバル」の開催
- ・「子ども読書県しまね」ブックスタート推進事業

表4 事業内容

市町村が学校司書等を配置するとき、つぎのように財政支援を行う。

配置区分	交付対象	交付基礎額と算定割合
ボランティア	1日1時間程度、週に5日以上 年間35週以上	200千円 10/10
学校司書A	1日5時間以上、週に5日以上 年間35週以上	1,000千円 市：1/2 町村：2/3
学校司書B	1日6時間以上、週に5日以上 年間52週	2,000千円 市：1/2 町村：2/3

※平成23年度の配置

県内小中学校合計 327校

・ボランティア配置 153校 ・学校司書A配置 145校 ・学校司書B配置 29校

表5 学級編成

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	合計
男子	2	0	1	2	2	3	10
女子	1	1	2	1	2	3	10
計	3	1	3	3	4	6	20

